

剣道の国際化 ～剣道の今後の発展について～

A study on internationalization of Kendo

～A study on the development of Kendo in future～

1K06B006

指導教員 主査 小野沢 弘史先生

雨谷 水紀

副査 矢野 尊之先生

【序章】

現在剣道は、戦後一時禁止されたが、その後国内で復帰を遂げて以来、学校や警察、社会人など、あらゆる領域で、老若男女を問わず多くの人達が稽古に汗を流し、日本全国で盛んに行われている。

しかし、今や様々なスポーツが世界中に普及している現在、国技である相撲、柔道や空手といった日本文化の象徴とされる武道が国際化している中で、剣道だけが国際普及に遅れをとっていることに疑問を抱いていた。そこで他の競技の国際化を図った例や選手を取り上げながら、また剣道が現在国際化するかどうかの境界線に立っているというところに目を向け、剣道を世界中に広めるためにも日本剣道、国際剣道に触れてみて何か出来ることはないかと考えた。

【第一章 剣道について】

剣道は長い歴史を持っている。そのため、真剣を持って生死を賭けての勝負、武士の芸ごとの一環となったり、人間育成の方法であったり、流派として発達したり、いろいろ変化をおこして今日に至っている。この章では、剣道とはどのようなものなのかを改めて理解してもらえようように特色や効果を述べて、世界中の人々に剣道の素晴らしさを伝えようと考えた。

【第二章 剣道の国際化】

本章では剣道の国内での普及状況、海外での普及状況、年々変化してきている国際大会につ

いて述べている。それと国際剣道連盟の設立から現在に至る主な活動内容、そして国際剣道連盟が抱える問題点が述べられていて、それを知った上で関東学生剣道連盟の代表の学生により開催されたシンポジウムで討論した内容が本研究に重要な意見と考え、これを賛成派、反対派に分けてまとめて考察を行っている。

【第三章 剣道の国際化の現状と課題】

本章は、日本の剣道が国際的に普及発展していると同時に他国では勝利至上主義を求めた競技力を有した韓国が独自の立場で国際化を図ろうとする動きがみられ、日本もそれに危機を感じ、さまざまな動きをみせている様子が述べられている。また欧州諸国の剣道実態について海外の剣道家から直接リポートによって得られた情報を基に考察を行っている。それに加え、発展を遂げるために国際化の現状と課題を踏まえて重要とされる審判の問題と礼法のあり方について言及を行った。

【終章 ～これからの剣道はどうあるべきか～】

筆者の幼い頃からの夢であった剣道の国際化、オリンピック化を実現させるために求められる展望及び課題について考察を行っている。様々な視点から考察したことで現代剣道の発展、課題の解決策、今後の剣道日本のあるべき姿について述べることができた。そして、今回卒業研究を進めたことで、筆者が剣道をやれている

ことの大切さ，恵まれていることを本当に感じることができた．これは筆者の今後の剣道人生を豊かにする大きな糧となったと思う．また，今回の研究で古くから存在する剣道の魅力，現在の競技としての剣道の魅力，両方を学ぶことができた．筆者は，剣道がより世界中に正しい形で発展することを期待したい．また，今後も更に剣道に携わり剣道の普及，国際化に貢献したいと考える．